オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(48)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(48)－

１．始めに

前報(47)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

Columbia MS-1078-VX

モーツアルト　ピアノ協奏曲 20 番ニ短調
　　ピアノ協奏曲 22 番変ホ長調
アルフレート・ブレンデル（ピアノ）
ヴィルフリート・ベットヒャー指揮ウイーンフォルクスオパー管弦楽団
パウル・アンゲラー指揮ウイーン室内管弦楽団

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Columbia 盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

2 曲ともピアノ演奏はブレンデルですが、オーケストラは、ピアノ協奏曲 20 番はベットヒャー指揮ウイーンフォルクスオパー管弦楽団、ピアノ協奏曲 22 番はアンゲラー指揮ウイーン室内管弦楽団です。

ブレンデルのピアノは、ロマンチシズム溢れる流麗で歌うような演奏です。

ピアノ協奏曲 20 番のベットヒャー指揮ウイーンフォルクスオパー管弦楽団は、ウイーンのオペラを演奏する管弦楽団だけあって、よく歌わせる演奏です。

ピアノ協奏曲 22 番のアンゲラー指揮ウイーン室内管弦楽団は、同じウイーンの管弦楽団ながらウイーンフォルクスオパー管弦楽団と一味違った、爽やかで軽快な演奏です。

３．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、ブレンデルのピアノ、ウイーンフォルクスオパー管弦楽団、ウイーン室内管弦楽団のそれぞれの演奏スタイルが把握できました。

以上